

2023 年度会費・ご寄附のご依頼

世界中で子どもたちの命が奪われています。

日本では 2023 年度の国立成育医療センターの全国調査で、「小・中学生の約 10%にうつ症状があり、10%以上の子どもは直近 1 週間に死にたい気持ちを感じたり、実際に自分の身体を傷つけた」との報告があります。

コロナや経済格差の拡大は特にシングルマザーを直撃しています。経済格差に加えて家庭内で親子関係の断絶が進み関係性の貧困が深刻化しています。さらに経済的貧困と関係性の貧困の相乗効果として体験の貧困を生み出しています。親子分離には至っていない多くの家庭の中ではその孤立した親を支えると共に、結果として生きづらさを抱えてしか生きていけない多くの子どもに対して社会からの早急な支援が求められています。例えば、毎週同じ訪問支援員が調理や片付けを通して子どもに関わることで、少しずつ子どもの心の回復が促されていき、その結果、成人後に薬物やお酒に依存しないでも生きていける人生を歩めるようになります。

一昨年は日本財団の助成金で、「東京都における養育支援訪問事業の改善課題に関する調査研究」～子育て経験者・ヘルパー等が行う育児・家事援助を中心に～の調査を東京都全自治体対象に実施しました。今年度は同じく日本財団の助成金を得て全国の自治体を対象に、養育支援訪問事業の中でも子育て経験者・ヘルパー等が行う育児・家事援助の全国の事業実態を把握することで、今後の子育て世帯訪問支援事業等の家庭訪問支援制度や運営上の改善課題を明らかにするために、現在アンケート・インタビュー調査を進めているところです。

養育支援訪問事業育児・家事援助の取組みは、生きづらさを抱えた子どもに社会が手を差し伸べて、子ども時代のうちに心の回復を保障することで子ども時代の苦しみを成人後まで引きづらないためです。全国調査は、地域によって支援のばらつきが生じないようにすること、そして時間を要する子どもの心の回復が訪問支援によって全ての子どもに叶えられることが目的です。

協会の昨年度の収支が赤字だった上に、今年の全国調査に 22 万円を拠出しなければなりません。いつもお願いばかりで恐縮ですが、どうか 2023 年度も引き続き会費・ご寄附にご協力いただきたく、重ねてお願い申し上げます。お手数ではございますが、会費等のご納入には、同封の振替用紙をご利用いただければと思います。

◆ コラム 「埼玉戸田市'23・3・1 少年事件と神戸の少年事件」を添付

2023 年 12 月

特定非営利活動法人

日本子どもソーシャルワーク協会

理事長 寺出 壽美子